

もしも原子がみえたなら

ちよっ と見えた原子の世界

滝沢市立鶴飼小学校 三年

齋藤

理恵瑠

私は、「もしも原子が見えたなら」という本を誌んで、原子の世界を旅してきました。

この本は、この宇宙のすべてのものは原子というものがたくさん集まって出来ているというとき、みの回りにある空気や水をたとえにして、その様子を絵を使って教えてくれている本です。十回以上くりがえし読んでみ

2

ましたが、それでも原子の世界は、少し分かったようなそんな気持ちでいました。そんな私の様子を見て、母が声をかけてくれて、本の絵を見ながら、紙ねんどと竹ひごを使い、さまざまな分子の模型をいっしょに作ってくれました。出来上がった分子の模型を見ながら部屋の中を見てみると、見えるはずのないさん素分子やちっ素分子、そして水の分子も見えてくるような不思議な気持ちになりました。

も型を作った後は、本に書いてある砂とう
 のじっけんをしてみました。それは砂とうを
 火にかけると水が出て、まっ黒い炭のこる
 というものです。けっかは、砂とうを火にか
 けるとすぐに砂とうがとけて、ゆげが出てき
 ました。これは、さん素原子と水素原子から
 出来た水分子が炭素とはなれて、空気の中に
 とびだした様子なのだと思います。あとに
 は、まっ黒なものだけがのこりました。これ
 が炭素だと思いましたが、ぎ問も生まれまし

た。前にべつの本で、「ダイヤモンドは炭素で
 出来ている」と書いてあるものを読んだこと
 があります。同じ炭素で出来ているのに、炭
 とダイヤモンドでは、見た目が全ぜんちがい
 ます。それは、とても不思議なことだと思い
 ました。

私にとって、原子の世界の不思議は他にも
 あります。たとえば、一さんか炭素のように、
 体にあるい分子があります。でも同じ原子で
 できているニさんが炭素は、体にわるくない

そうです。原子が一つ多いか少ないかだけで、
全ぜんちがうものになってしまうのです。

そこで私は思いました。人や動植物におる
い分子は、砂とうのじっけんのように、分子
を分けて、ちがうものにかえたり、他の原子
をくっつけてよい分子にしたりしたらよいの
ではないかと。もしそんなことが出来たなら、
新しいエネルギーを作ることが出来るかもし
れません。たとえば、水からエネルギーをと
り出して、電気をつけたり車を走らせたりす

6

ることが出来たらとてもステキだと思います。
私は、そんなふうに、世の中の人たちみんなが、
しあわせになれるような、やくだつ分
子を、いつか作ってみたいと思いました。そ
んなゆめのようなステキな原子の世界への私
の旅は、これからまだまだつづきます。